

☆「いきいきグループ」紹介☆☆☆☆

グループ「糸の詩」



グループ「糸の詩」のみなさん（多摩区）

グループ「糸の詩」は、高齢者、障害者、療養中の人のための着やすくお洒落な服や小物を工夫・研究し、製作しているボランティアグループです。

グループの代表でもある、栗田佐穂子さん（登戸ドレスメーカー学院副校長・かわさきマイスター）は、25年ほど前から生徒でもあった介護未経験の看護婦さんから相談されたことなどもあって、介護服の研究をずっと続けていました。「糸の詩」を始めるきっかけは、息子さんが骨折で入院した時に、ズボンをリメイクしたことが始まりです。

「糸の詩」は平成7年に4人の仲間介護服を作る活動を始め、現在では30人余りの会員となりました。以来、現在に至るまで、高齢者や障害のある方のために、単に「脱着しやすい服」というだけでなく、お洒落で、値段が高くなく、すぐ手に入れやすい、個人のニーズにあった服を研究し、実際に仕立てたり、リメイクしたりして活動しています。

活動は毎月第1・3金曜日、場所は登戸ドレスメーカー学院その他で行います。関心のある方は、洋裁経験のあるなしにかかわらず誰でも参加できます。内容は、障害者の希望をリサーチしたり、会員同士でリメイクのアイデアを研究しあったり、そのための技術を教えあったり、また、高齢者施設を見学に行ったりと、その時々でさまざまだとか。ある時などは、会員の戦争体験を聞いて終わったときもあるそうです。



皆さんの制作風景

また、会に参加するだけで心が休まると見学だけの人や、洋裁は苦手だけど、会員の活動の手助けにとサポートに来てくれる人など…。いろいろな人の支えでなっているアットホームなグループです。

会員の方にお話を伺うと、「この会に参加するようになって本当に人生が変わった。救われました。」という方や、「帽子をたくさん作って皆さんに差し上げるので毎日が忙しくて充実してます。」とお話ししてくださる方。



代表の栗田さん

本当に皆さんがいきいきと、若々しくて、とにかく楽しそうなのが印象的でした。

また、年に数回、障害者や高齢者のために工夫されて仕立てられた洋服でのファッションショーも開催しています。

その時は、みなそれぞれのテーマで、洋服を作成し、実際にモデルとしてショーに出演したりもしています。とかく、障害をもった方には、介護する側が、機能面ばかりを重視して、寝巻きや部屋着ばかりを着せてしまいがちになってしまいます。



ファッションショーの様子

このファッションショーを見た方が実際に相談にくることがとても多いと伺いました。

「お洒落をするということは、年齢や障害の有無は関係なく、人の気持ちを明るくいきいきとさせてくれます。」

グループ「糸の詩」の皆さんの活動をとおして、たくさんの方が、お洒落をあきらめないで楽しめるようになったら、とても素晴らしいことだと思います。

「何よりも着る本人が素敵に輝いてくれることが私達の一番の喜びです」と会員の方。暖かいやさしさに勇気づけられました。

追記

この日、私の目に止まったのは、「ネクタイ・ベスト柄」のエプロン。いつも食事の時は白いエプロンを胸にあてて食事している87歳の父。これをさっそくお土産にプレゼントしたところ大喜び。外で食事する時でもこれならステキです！「いいかい？」と嬉しそうにエプロンをしてくれた父でした。



お問合せ：グループ「糸の詩」

登戸ドレスメーカー学院内 電話 911-2221